

『虞美人草』第十九章冒頭

Junko Higasa 2013.11.6

また突然「頭の池」に次の文脈が浮上した。

『凝る雲の底を抜いて、小^こ一^{いち}日^{にち}空を傾けた雨は、大地の髓に浸み込むまで降って歇^やんだ。春は茲^{こゝ}に尽きる。梅に、桜に、桃に、李に、かつ散り、かつ散って、残^{くれ}る^{ない}紅もまた夢のように散ってしまった。春に誇るものは悉く亡ぶ。我^がの女は虚栄の毒を仰いで斃れた。花に相手を失った風は、徒らに亡き人の部屋に薰り初める』

「あれ？これって、漢字だけ拾っても意味が通じるかも」と思い、以下のように字を拾ってみた。

我	春	大	凝
女	茲	地	雲
虚	尽	髓	底
栄	残	浸	抜
毒	紅	込	空
仰	夢	降	傾
斃	散	歇	雨